

膵臓の手術を 受けた方へ

—手術後の糖尿病と栄養障害—

監修 三浦 順之助 先生 東京女子医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野 准教授



はじめに

三浦 順之助

東京女子医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野 准教授

膵臓の手術が終わったみなさんは、
病気になる前の生活に戻れるよろこびとともに、
手術の後遺症などに不安を感じておられることでしょう。

膵臓は、生きていくために大切な臓器の一つです。

膵臓の手術をすると、
手術する前にはなかった症状がでてきます。

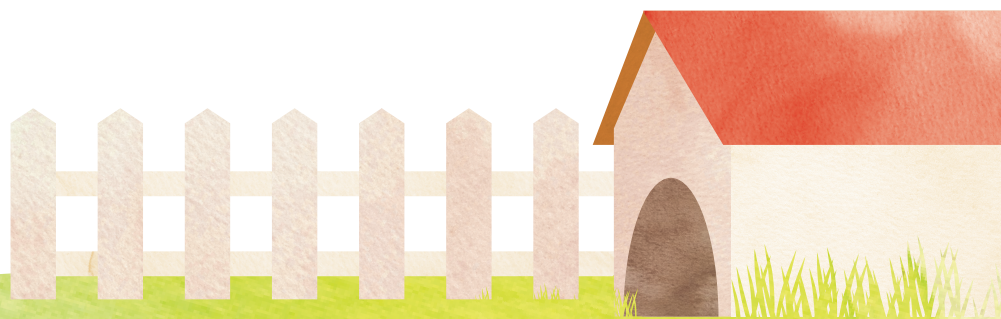
でも大丈夫です。

近年、手術で失われた膵臓の機能を補うための治療が
大きく進歩しました。

そうした治療を続けることにより、症状を抑えながら、
ふつうの生活を送れるようになってきました。

この冊子は、膵臓の手術をした後に起こりやすい
糖尿病と栄養障害・下痢について、
なぜ起こるのか、
どのような状態になるのか、
そして、どのように対処できるのかを
紹介しています。

この冊子がみなさまの一助となれば幸いです。



Q 膵臓の病気や膵臓の手術は糖尿病と、 どのような関係があるのでしょうか？

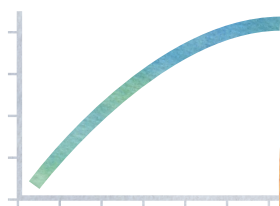
A 膵臓は糖質、タンパク質、脂質すべてを分解する消化酵素と血糖を下げる役目を持つインスリンというホルモンを作る臓器です。膵臓の炎症やがんのために膵臓の手術をすると、消化酵素とともにインスリン分泌にも影響を与えます。

糖尿病は膵臓の病気や膵臓の手術によっても起こります。

膵臓の手術によって起こる糖尿病は、膵臓の中でインスリンを作る部分がなくなるために起こります。さらに、同じく膵臓で作られ、血糖を上げる働きของ グルカゴンというホルモンも作られなくなるため血糖が上がったり下がったりとたいへん不安定になりやすくなります。

ただし、膵臓の病気があるだけでも糖尿病は起こります。この場合は、手術によってかえって糖尿病がよくなることがあります。

（手術の前から糖尿病をお持ちの方は、手術後に血糖管理が悪化することが多いです。）



Q 膵臓を手術した後、どのようなことに気を付けていけばよいのでしょうか？

A 膵臓の全て、あるいは大部分を切除した方は、手術後すぐに糖尿病の治療が必要となります。それは、手術をする前に糖尿病であったかどうかには関係ありません。



手術の前から糖尿病である場合、手術の後よくなっても、しばらくしてから、徐々に血糖が上がり、糖尿病へと進んでいくことがあります。

血糖が高くなり始めても、最初は何も症状を感じません。しかし、血糖が高い状態が続くと、次第にのどが渇く、水分をたくさんとる、尿の量が増えるといった症状が現れてきます。さらに疲れやすい、体重が急に減るといった状態になったときには、血糖値は危険なほどに高くなっており、そのまま放置していると、意識を失い、命にかかわることもあります。

ですから、定期的に受診して、血糖が高くなっていないか、検査を受けることがとても大切です。



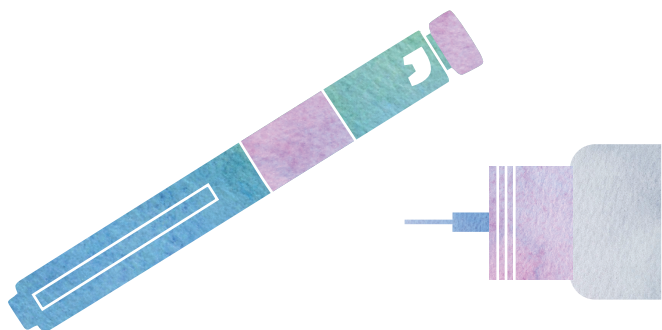
Q 膵臓の手術をした後に 糖尿病になったら、 どのように治療するのでしょうか？

A 糖尿病になっても、残った膵臓にインスリンを作る力が十分に残っていれば、食事療法や飲み薬で治療できることもあります。

飲み薬で血糖を管理することが難しいときは、インスリン注射で治療を行います。膵臓を全て切除した方は、手術のすぐ後からインスリンによる治療を始めます。

インスリン注射はペン型注射器を使って自分で注射する方法と、インスリンポンプと呼ばれる携帯型の小型機器を使って持続的に注入する方法があります。どちらの方法も痛みは少なく、同じように効果があります。

また、膵臓の手術をしなくても、糖尿病でインスリンによる治療を受けている方はたくさんいらっしゃいます。



Q インスリン治療を始めたら、 どのようなことに 注意すればよいのでしょうか？

A

まず、インスリンを
指示された量やタイミングで
毎日、きちんと注射することが大切です。

インスリンの量は、血糖値と食事の量と注射の
タイミングに応じて決めていきます。
そのために、多くの方はインスリンの治療と同時に、
血糖を自分で測る血糖自己測定を始めます。
最初は、測定された血糖値に応じて、
医師がインスリンの量を指示しますが、
慣れてくると、自分で測った血糖値と食事の量に応じて、
毎回注射するインスリン量を調節できるようになります。
調節の細かな設定は、主治医と相談して下さい。

インスリンを使い始めた後に、注意することは
血糖値が低くなりすぎる「低血糖」です。
低血糖は、食事をきちんととれなかったときや
食事と運動量のバランスが悪かったときに起こりやすくなります。
低血糖の症状や対処方法について、
主治医や医療スタッフからよく教わっておきましょう。
低血糖を起こして自分では糖분을摂取できない状態になったとき、
グルカゴンという血糖を上げるホルモン注射などを
ご家族や友達、同僚の方にしてもらえるようお願いしておくとうれしいです。



Q 糖尿病になったら、食事をがまんしなくてはならないのでしょうか？

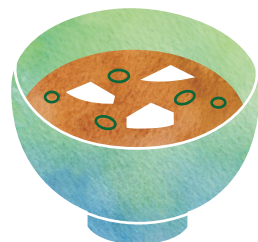
A 糖尿病の治療では、インスリンなど薬の量の調節だけではなく食事療法をあわせて行うことが大切です。

ただ、膵臓の手術をした患者さんの中には、食が細くなったり、膵臓から分泌される消化酵素が足りないことで、体重が減ってしまう方が少なくありません。膵臓の手術をした方は消化酵素(飲み薬)を補うことが欠かせませんが、(P9ページ)それでも栄養が足りなくなることがあります。

糖尿病の治療のために、血糖を下げようと食事を減らしてしまうと、いっそう栄養が足りなくなり、日常生活に支障をきたすことになりかねません。

ですから、きちんと食事をとった上で、必要な量のインスリンを使い、血糖値を管理していくことが勧められます。

食事については、自分で判断せずに、主治医や栄養士とよく相談していきましょう。



Q 膵臓を手術した後に、 栄養障害や下痢は、 なぜ起こるのでしょうか？

A 膵臓は、インスリンを産生して分泌するとともに、糖質やタンパク質、脂肪を分解するアミラーゼ、トリプシン、リパーゼといった消化酵素も作ります。これらの消化酵素は膵液として十二指腸に分泌され食物中の栄養分の消化、吸収を助けています。

膵臓の手術によって消化酵素が作られなくなったり、膵液が分泌されないようになると、栄養分が吸収されにくくなって栄養障害が起こります。また吸収されなかった脂肪分がそのまま腸管にとどまり下痢が起こります。

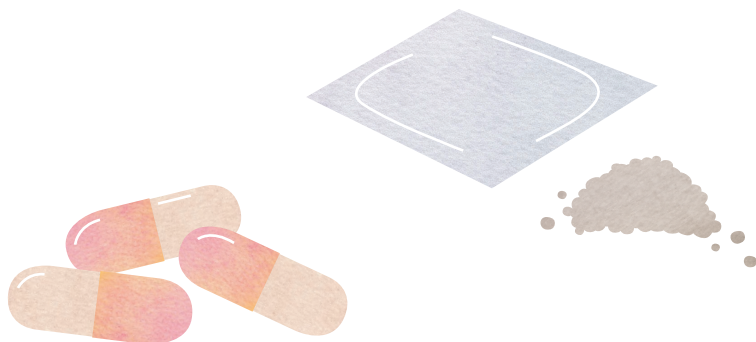


Q 栄養障害や下痢は どのように治療しますか？

A 足りなくなった消化酵素を
消化酵素薬という飲み薬によって補う治療を行います。

最近、膵臓の手術をした患者さんのために開発された、
効果の強い消化酵素薬が使えるようになりました。
この薬物によって、以前よりも消化吸収がよくなり、
栄養状態が改善し、
また下痢も少なくなりました。

膵臓の手術をした後には、
栄養障害のために脂肪肝という病気になることがありますが、
消化酵素薬を適切に使うことで、
脂肪肝になることを防ぐこともできると期待されています。



これからの 生活のために

膵臓の手術をしなくてはならなくなったことは残念なことです。
また、別の病気にならないかと
不安になることもあるかもしれません。

でも、最近、インスリン治療や消化酵素薬はとても進歩しており、
膵臓の手術をしても、きちんと治療を続けていれば、
手術する前と、ほぼかわらない生活を送ることができるのです。

治療を続けながら、
これからの人生をめいっぱい楽しんでいきましょう。



■ウェブサイトのご紹介

インスリン治療や食事療法、低血糖を起こしたときの対処法など
これからの生活に役立つ情報にインターネットからアクセスできます。

<https://www.diabetes.co.jp/>



日本イーライリリー株式会社

